
人形のココロ

ソーヤ

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

人形のココロ

【Nコード】

N7745B

【作者名】

ソーヤ

【あらすじ】

ある風俗嬢が、仕事を辞めるまでの心の動きと葛藤を描いた短編。性描写を目的としたものではなく、あくまでも性という問題に真面目に取り組んだ作品である。

備え付けの電話が鳴る。

来たか。

「美由ちゃん、50分コースね。オプションで体操服B。10分で準備よろしく」

ため息ひとつついて、衣装ケースから指定されたものを取り出し、身につける。

私は、このファッションヘルスという種類の風俗店で働きだして三ヶ月になる。

名前は美由。もちろん源氏名だ。店では19とサバをよんでいるが、ホントは23。

繁華街のド真ん中に、堂々とした店舗を構えて営業しているわけではない。

受付はマンシヨンの一室。広告を見て電話してきた客は、まずその来るように言われる。

そして好みの子を決め、支払いを済ませてから、またさらにマンシヨンの別の部屋へ行くように指示される。そこに、サービスを提供される風俗嬢がいるのだ。経営側で、部屋をいくつか押さえているのだ。

だから、今いるこの綺麗なワンルームは、私の職場。

客にリアリティを楽しんでもらうために、いろいろと女の子の部屋っぽく装飾してある。

今日は、次の客で三人目だ。

よっしゃあ、ガンバレ、ワタシ。

頬を両手でピシッと叩いて、気合を入れる。

チャイムが鳴ったので、営業スマイルに切り替え、ドアに駆け寄った。

社会でお金を稼ぐということは、シンドイ。

たまに、「風俗嬢は自分のカラダが武器だから、抱かせておけば（フツーにバイトしたりOLしたりするより）結構な金額を手にするんだから、若い女の子はいいよね〜」って思ってる人がいる。客にも、「結構稼げるんでしょ？」と言ってくる心ないオヤジがいる。

確かに、分不相応な現金を手に行けるといことは、否定しない。この仕事が続けられる限りは、一人でだって食って行ける。

でも、やっぱりそのカネに見合ったものを犠牲にしてるんだと思う。

全員じゃないと思うよ。中には他人とのセックスが抵抗なく楽しめる、という人種もいるかもしれない。

ワタシは、客に抱かれる度に、何かを削り取られている。

何をだ、と問われても、私のごとき学のない女には、うまく表現する術がない。

だから、悪事や腐った特権以外の理由では、世の中労働に見合った代価しか受け取れないようにできているのだ。

私らの給料が高いのは、「女を売る」ということのつらい・悲しくも高いその価値を提供しているから。ただ、それだけのこと。

仕事と割り切らなければ、勤まらない。

客のほとんどは、いい年したオヤジか、彼女のいないキモヲタ。

相手は福沢諭吉かカボチャくらいに思ってるから、どんな顔してようが平気。

でも、仕事モードになってさえ唯一敵であり続けるのは、客の口臭と体臭。

じつくりボディソープで客の体を丹念に洗う。

「美由ちゃん、丁寧だねえ」とほめる客がいる。ごめんね、自分のためなんだ実は。心の中でぺろっ舌を出す。

イソジンでうがいさせるが、これはそれ以上私にできることはない。

付け焼刃のうがいは、年月の刻んだものには、さすがに勝てない。
・・・頼むから、日々の歯磨きして、そんなもって歯肉炎をなおしてくれ。

客に恋愛感情をもつなどは、かなりまれなケースなのではないだろうか。

そこそこイケてる男なら、そもそも風俗になど来ない。

こないだ、ひとり彼女の一人や二人いてもおかしくない、ちょっとタイプの男が来た。

話し上手でウィットに富んでいた。ますます彼のような人物がなぜ風俗に来るのか、不思議になったが、その謎はしばらくして解けた。

彼は、イメージプレイをしたがったのだ。衣装を渡され、話の流れやセリフ、果てはオチまで決まっていて、彼のシナリオ通りに動かされた。ある程度なら、ワタシも仕事だから気乗りしてるフリして付き合っただけを越したこだわりにはウンザリした。なるほど、お金でも払わなければ彼なりに解消できないわけだ。

私の気乗りしていないのがなんとなく伝わってしまったのか、それともイメージプレイのパートナーとしては彼の目に不合格だったのか。その後リピートで2回来たのを最後に、彼が来ることはなかった。きっと、彼は満足いく女の子を見つけるまで、風俗店を渡り歩くのであろう。

とにかく、体を介したサービスをするというだけで、他はファーストフードの店員の店員とかわらない。ハンバーガーじゃなくて提供するの体だから高いけど、スマイルは0円。

私のこの言葉に反発する風俗嬢は、きっと長くはココロがもたない人だ。

逆に、私の方がすでにおかしいのだろうか。

そんなある日のこと。

変わった客が私についた。

外見的には、特にこれといって変わったところはない。

ブ男でもなければ、かといってイケメンでもない。いわゆるこれといって特徴のない、普通の男の人。年は多分、20代後半くらい。オジサンと肥えたオタクが続いたので、意味もなく肩の力が抜けたのを覚えている。

接客中にリラックスしたのは、初めてだ。

やることは一通りフツーにやって帰っていった。

会話も、はずんだっていうほどじゃないけど、それなりに楽しかった。

セカチュー見て良かったとか、泣いたとか泣かなかったとか、その程度だったと思うが。

一週間後も指名で、その男性はやって来た。

今度は、前よりすこし長めのコースだった。

私はこの時、仕事で性的サービスをしている最中に、はじめて「心を無」にしなかった。

その辺の石ころやお人形さんとかわからない、魂の抜け殻になることで、自分を保っている世界があった。

一体、何が私にそうさせたのか。一目で気に入るようなルックスだとか、話術が巧みだとか、そういうんではないな。おそらく、「実直」な人柄なのだろう。言い方を変えると素朴、っていうのかな。「彼女はいいない」って言った。バカにできない風俗嬢の坎にかけて、それはウソではないと思う。

多分、彼は不器用、なんだよ。

とっってもいい人なのに、そこで損している。

あなたのような人にもっと前に出会えていたら、よかったかも。彼に対する同情なのか、本来手にしたかった幸せの片鱗を彼に見出したかったのだろうか。組み敷かれ、唇を吸われながら、私はジブンを自覚していた。

石には、人形にはなりきれなかった。

全てが終わって、服をまとい帰りかけようとする彼と何気なく交わした会話。

オススメの映画何かない？って聞いた。翌日が休みだったし、ビデオ借りる参考にしようと思ってね。

彼が教えてくれたのは「ニューシネマ・パラダイス」。

聞いたことないな。

イタリア映画だっけきた。感動するらしいけど、見るかどうか迷うなあ。

さつき見終わった。

なるほど。

確かに、イタリア映画らしい展開と内容だ。

子役がカワイイ。

.....

プラスの意味で、この映画から感銘を受けたわけではない。

しかし、何かが私の心をえぐった。

かろうじて指先で崖につかまっているところを、足で踏まれた。

私は、まっさかさまに海に転落したような、暗澹たる気分であった。

眠れなかった。

妙に芯の冷えた頭の中で、グルグルと思考が堂々巡りをする。

ヒトは生きるために、カネを稼ぐはずだ。もつと言えば、「幸せに」生きるために。もしくは、「誰か愛する人」のために。

私は、ジブンを削ってオカネを稼いでいる。オカネを稼ぎながら、シアワセになるのとは逆走をしている。

栓を抜いたバスタブに、いくらお湯をいれたところで、溜まるわけがない。

そんなイメージを頭に思い描いた。

自由な生活と少しの貯金と引き換えに、私が出たものは何だ。

私は、風俗嬢をやめた。

今、あるデパ地下のケーキ売り場で働いている。

乾いた私のところは、まだあのとときと変わっていない。でも、私は満足だ。

ヒトは、どんな状態からでも、やり直せる。

今でも時々思い出す。

ついで名前も聞くことのなかった、2回体を重ねあったあの男性は、今一体どこでどうしているだろうか。急にやめたからなあ。あの後店に来て、「私はもう在籍してない」って言われて帰ったのかなあ。

正直に生きた分の幸せをつかんでいて欲しいと願う。

今ほど、自分に素直に生きにくいこの世の不条理さを呪ったことはない。

実は、ヒトが幸せに生きるには、オカネは沢山はいらななんだね。その代わり、あるものがないと、オカネがいくらあってもしょう

がないんだよね。

親子連れがケーキを買いにきた。

お母さんが男の子に、自分でお金を渡してごらん、という。

男の子のちっちゃい手のひらに、折りたたまれた千円札。

私はそれを受け取って、おつりの硬貨をにぎらせてあげた。

よくできました。帰ってパパに報告だね。お釣りで落書き帳かっ

ちやだめ??

仲良く会話しながら、親子連れは売り場を後にする。

「ありがとうございます」

そう言いながら、お客様に頭を下げた。

重力が、私の目に溜まったものを床へ落とした。

(後書き)

映画「ニューシネマパラダイス」について、どういった内容なのか、またその映画のどこに主人公が引っかかったのかについて、細部をあえて描いておりません。必ずしも説明が必要と感じなかったこと、また知らない方はこの映画に興味をもってご覧になっていただけるきっかけとなればうれしいと思ったことから、です。

PDF小説ネット発足にあたって
PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7745b/>

人形のココロ

2008年11月7日09時00分発行